

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀市立北川副小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止策の影響が大きく、全校児童が集まるような行事や地域の方々に協力していただく体験活動などが計画通りには実施できなかった。コミュニティスクールとしての活動も十分には実施できなかった。次年度は、子どもたちへの教育的効果が望める活動は、十分な感染症対策を施しながら実施し、誰もが大切にされる学校を地域の協力を得ながら目指していく。 「教育のユニバーサルデザイン化」については、本来の理論や目的が薄れて取り組みが形骸化してきていたため、校内研究にも「人的環境のユニバーサルデザイン」を位置づけ研修に取り組んだ。次年度は授業のユニバーサルデザイン化についても研修し、どの児童も学習の成果が得られるようにしていきたい。
2 学校教育目標	<p>えがお かがやく 子ども を育てる チーム北川副</p> <p>～誰もが大切にされる学校を目指して～</p>
3 本年度の重点目標	<p>①子ども・保護者・地域住民と共に「教育のユニバーサルデザイン化」を推進する。</p> <p>②子に応じた多様な指導方法を工夫し、基礎学力の定着と主体的に学ぶ力を高める。</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	中間評価 進捗状況と見通し	達成度(評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・「北川副小学校 学習の約束」にそって、共通理解のもと学習指導を行う。 ・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・全教科で、必要に応じて「メタセタイム」を行い、議論が広がり深まるための工夫を行う。	A	・マイプランを学年で共有している。 ・全国学状の結果を分析し、各学年で取り組むことを決め、実行している。	B	・成果指標を達成した教師は、78%であった。全国や県の調査結果の分析により、具体的な取組について全職員で議論した。来年度の計画にも反映させる予定である。	B	・小学校の授業に集中出来ているので、学校での勉強も一度で理解出来ています。先生達が学校だけで身につけやすい授業をされていることに驚きました。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
	○学習内容の定着に向けた教育のUD化の視点を取り入れた授業の実践	○「授業を通して、『できた』『わかった』と感じると回答する児童80%以上	・昨年度までの「考え、議論する道徳」の経験を生かし、学び合い活動を他教科にも広げる。 ・算数科の校内研修等の実施 ・授業のUD化(視覚化・焦点化・共有化)を促進する。	A	・肯定的な回答をした児童は88%であった。校内研修で取り組んでいる算数科におけるUD教育の実践が、他教科に広がりつつある。	A	・肯定的な回答をした児童は87%であった。組織編成や研修会のもち方を工夫したことにより、校内研究を充実させることができた。	A	・先生が、子どもの個性を認めて、根気強くかわっている。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達に、にこにこ言葉をよく使っている」と回答する児童90%以上	・道徳科・特別支援教育に関する校内研修等の実施 ・人権教室の実施	B	・肯定的な回答をした児童は91%であった。互いに思いやりをもった言葉かけをしていることが分かる。しかし、好ましくない言葉を使っている児童もいる。同学年や異学年、大人への言葉遣いなど引き続き指導が必要である。	A	・肯定的な回答をした児童は92%であった。人権教室によるにこにこ言葉の指導や、道徳の授業でのメタセタイムによる他者理解の指導を行ったことで、思いやりの心をもつ児童が増えた。	B	・子どもが、親の言葉遣いを注意してくれることがある。優しい言葉遣いを日頃から先生がしっかり教えてくれているからである。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 各学年主任	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている」と回答する児童95%以上	・いじめの早期発見のために、毎月、児童へのいじめアンケートを行う。 ・いじめが見つかった場合は、担任一人に任せず、管理職も含むチームで対応する。	A	・95%の児童が、肯定的な回答をしている。アンケート等で覚知し認知したいじめについては、組織的に対応していくことで、早期解決を図っている。	A	・肯定的な回答をした児童は96%であった。年2回のOUアンケートの実施後、個別の教育相談の機会を設けたことや、毎月の「学校生活アンケート」を実施したこと。児童同士のトラブルやいじめの早期発見ができた。	B	・学校で安定して過ごすことができるようになって、安心した。今後も見守りをお願いしたい。先生の負担が大きすぎる。積極的に保護者が動かないと、できることはないか。ぜひ、何か困っていることがあれば、相談してほしい。	(主)生徒指導主任 (副)各学年主任	
	◎志を高める教育 自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・「目標に向かって努力している」と回答する児童75%以上	・各体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・キャリアパスポートの有効な活用方法について研修し共通理解を図る。	A	・肯定的な回答をした児童は84%であった。感染症対策をしながらではあるが、地域人材を活用したキャリア教育を取り組むことができた。	A	・肯定的な回答をした児童は85%であった。生活科や総合学習でのゲストティーチャーや地域の方との体験活動、道徳教育を通して、児童が目標をもつことができた。	B	・以前よりも意欲的に学習に取り組んでいるように思う。 ・考えをしっかりと持って行動している。意思と行動が伴わないこともあるが、努力をしていることが分かる。	(主)教務主任 (副)各教科主任	
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」「きたえよう心と体」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で210分以上の児童生徒75%以上	・毎日の外遊びを奨励するとともに、様々な外遊びを紹介することで、児童の興味、関心を高める。	A	・肯定的な回答をした児童は77%であった。感染症対策のため、縦割りで行う外遊びは実施できていない。今後は、マラソンタイムなど、コロナ禍の中でも取り組むことのできる活動を仕組みたい。	A	・肯定的な回答をした児童は80%であった。縄跳びチャレンジの実施により、意欲が高まったと考えられる。今後も引き続き、児童が意欲的に取り組む活動を仕組みたい。	B	・放課後、社会体育に参加している児童は、頻りに運動をしている。社会体育に参加していない児童が、外遊びをどれほどしているかの把握は難しい。	体育主任	
	○「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化	○「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでいる児童85%以上	・学び部や家庭と連携し、年2回(6月と11月)「生活習慣チェック」を行う。	B	・肯定的な回答をした児童は84%であった。また習慣になっていない児童には、テレビやゲーム等の時間を決めて、「早寝」から実行するよう指導していきたい。	B	・肯定的な回答をした児童は82%であった。テレビやゲーム等の使用ルールの例を提示するなど、「早寝」からの実践を指導していきたい。 ・保健指導と併せて「朝ごはん」の重要性も指導する。	B	・スマホやオンラインゲームの影響が大きい。睡眠時間が、学校生活に大きく影響している。各家庭にしっかりと伝えてく必要がある。	保健主事 栄養教諭 学校栄養職員 食育推進担当者	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限を遵守する。	・勤務時間を毎日入力することにより、時間外勤務時間を意識する。 ・定時退勤日の設定 ・学年定時退勤日の設定	B	・ひと月に45時間以上時間外勤務をした職員が、年度初めの4月は63%だった。その後は徐々に時間外勤務の上限への意識が高まってきている。	B	・ひと月に45時間以上時間外勤務をした職員は、1月は22%、2月は35%と年度当初よりは低くなっており、効率よく仕事に取り組むという意識が高まってきている。	B	・学校の要望を言っていたら、柔軟に対応したい。	働き方改革委員会	
	○会議・業務等の在り方を見直すことにより、児童と関わる時間を確保する。	○「担任は、子どもにしっかりとかわっている」と回答する児童・保護者90%以上	・会議の内容、進行の仕方等を改善して回数や時間の削減を図る。 ・各所の整理、整とんを進め、業務の効率化を図る。	A	・肯定的な回答をした児童は94%、保護者95%と、どちらも高い評価を得られている。	A	・肯定的な回答をした児童は95%、保護者95%と、どちらも高い評価を得られている。	B	・担任の先生が、子どもを見てくれて、関わってくれている。クラスの雰囲気も良い。	働き方改革委員会	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	中間評価 進捗状況と見通し	達成度(評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者	
○あいさつ	○生活習慣、礼儀の定着 「かわそうあいさつ」「そえようえがお」	○「時と場に応じた挨拶をしている」と回答する児童80%以上	・全校(リモート)集会などで、機会を捉え挨拶について取り上げ、児童の意識を高める。 ・地域の方にも協力してもらい「あいさつ運動週間」を実施する。	B	・肯定的な回答をした児童は87%であった。職員から進んで挨拶をしたり、児童会で「あいさつ週間」を設定したりして意識を高めてきたが、まだ進んで挨拶をすることができていない児童もいる。	A	・肯定的な回答をした児童は、92%であった。挨拶をすることのよさや大切さについては、高い認識で推移していると思われる。児童会からの呼びかけや朝の挨拶運動も功を奏していると思われる。個人差については依然として見られ、進んでできていない児童も見られる。	B	・地域に住む子どもたちは、よく挨拶をしている。しかし、知らない人に対しては、挨拶が少ないように思う。誰にでも挨拶をすることの意義を伝えていく必要がある。	生徒指導主任 主幹教諭	
○教育のユニバーサルデザイン化	○学習しやすい環境づくり	○「学習に集中しやすい環境・学級である」と回答する児童・保護者75%以上	・特別支援教育の視点を取り入れた「学習環境のユニバーサルデザイン化」授業のユニバーサルデザイン化を図る。 ・学校運営協議会やPTAと連携して研修会を行う。	A	・校内研修において講師を招き、UD教育についての研修を継続している。 ・黒板の周囲の掲示物などは88%、保護者は93%であった。学校運営協議会やPTAと連携してユニバーサルデザインの研修会を実施する予定である。	A	・肯定的な回答をした児童は87%、保護者は94%であった。 ・黒板の周囲の掲示物などに配慮し、学習に集中しやすい環境を達成している学級が多い。児童の学習規律への意識を高めることで、さらに集中しやすい学級を実現できるものと考えられる。	B	・授業に集中できる環境をつくっていただいている。 ・木製の机のデスクマットの傷みが激しいものがある。交換を検討してほしい。	教務主任 学び部主任	
○図書館教育	○読書活動の推進 「たくさん本を読もう」	○「学校や家庭で、進んで本を読んでいる」と回答する児童75%以上	・がんばりを励ましたり称賛したりする手立てを工夫(図書館便り等の紹介や表彰)する。 ・推薦図書50選の内容を見直し、児童が興味を持って意欲的に取り組めるようにする。 ・必要に応じて週末の宿題に読書を出したり、親子読書の機会を設けるなどして、読書の習慣化を図る。	B	・肯定的な回答をした児童は69%であったが、昨年度から少しずつ数値が高まっている。「おすすめの本」や「図書館祭り」、毎日の「読書タイム」などの取組の成果だと思われる。	B	・肯定的な回答をした児童は68%であった。図書館の貸出数が増え、読書に親しむ児童が増えた。「おすすめの本50選」や「図書館祭り」などの取組の成果だと思われる。また、通書を選べるように、各学年の貸出時間帯を決めたことで、貸し出しがスムーズにできたことも良かった。	B	・依頼があれば、休み時間等を使って、読み聞かせ活動を実施することができる。	図書館教育担当	

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <p>・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止策の影響が大きく、全校児童が集まるような行事や地域の方々に協力していただく体験活動などが計画通りには実施できなかった。コミュニティスクールとしての活動も十分には実施できなかった。次年度は、子どもたちへの教育的効果が望める活動は、十分な感染症対策を施しながら実施し、誰もが大切にされる学校を地域の協力を得ながら目指していきたい。</p> <p>・「教育のユニバーサルデザイン化」については、本来の理論や目的が薄れて取り組みが形骸化してきていたため、校内研究に「算数科授業を中心とした、授業のユニバーサルデザイン化」を位置づけ研修に取り組んだ。次年度は人権・同和教育についても研修し、人的環境のユニバーサルデザイン化に取り組み、誰もが大切にされる学校を目指していきたい。</p>
------------------------------	---